

特集

# いまアドバイスしたい ホーム・リスクマネジメント

災害・事故への備えは大丈夫？

2013年、全国各地で見舞われた地震、風災、水災、竜巻などの自然災害。私たちはそれらの天災からどのように身を守ればよいのでしょうか？ 高齢者の住まいの防犯・防災対策は？ 増加する自転車事故への備えは？ インターネットなど新たな加入経路を踏まえた損害保険の加入の仕方は？ など、昨今の事情を踏まえた損害保険の選び方や加入の仕方のポイントについてまとめました。クライアントのホーム・リスクアドバイザーを目指してみませんか！



## PART 1

# 地震・火山災害や 気象災害に どう備えるか!?

多様化・複雑化する損害保険の  
見直しポイント

2013年は、日本をはじめ世界各地で異常気象や活発な火山活動等による自然災害被害に見舞われた。災害への備えは「命を守る」「生活を守る」「くらしを再建する」の3つに対応することが肝要だ。それらの経済的な下支えとして不可欠なのが損害保険であり、その中心が火災保険だ。火災保険が自然災害のどのような損害をカバーしているのか、ニーズに合わせて火災保険をどのように見直せばよいのか、そのポイントについてまとめた。

株式会社アドバンス 代表 AFP 岡部朱美

世界各地で増える自然災害、日本でも大雨や竜巻の被害続出

ことわざに「天災は忘れたころにやってくる」とあるが、最近の異常気象を鑑みると「天災は忘

れる暇なくやってくる」と感じるのは筆者だけだろうか。2013年1年間を見ても、「1月18日にシドニーで気温が45・8℃を記録し、最高気温を74年ぶりに更新」「5月中旬ロシアアルタイ地方で

30℃を観測した数日後に降雪を観測」「12月13日寒波による中東大雪のため、エルサレムで37cmの積雪、エジプトのカイロでも100年ぶりの積雪」など、世界において「異常気象」の概念すら変わってきているように思う。

地球温暖化による気候変動等による災害リスクの高まりにより、世界中で自然災害の発生件数および被害者数が増加傾向にある。

例えば、2007年～2011年の世界の自然災害発生件数の年平均は、1972年～1976年の年平均の約6・2倍にも増加している(図表1「世界の自然災害発生頻度」参照)。

近年ではスマトラ島沖地震(2004年12月、マグニチュード9・1、死者約28万人)、米国のハリケーン・カトリナ(2005年8月、ハリケーンの強さ最大の5、死者1577名)、タイの洪水(2011年7月～3カ月続く。死者446人、230万人に影響。経済的損失400億円弱)等で大

きな被害が発生している。日本でも2013年の夏は、列島各地で記録的な猛暑と度重なる大雨、竜巻といった異常気象に見舞われた。

8月12日には、高知県の四万十市で国内観測史上を更新する気温41・0℃を記録。また「これまでに経験したことのないような大雨(気象庁が最大限の警戒を呼びかけ)による7月28日の山口・島根の豪雨や、8月9日の秋田・

図表1 世界の自然災害発生頻度および被害状況の推移(年平均)

